

## 恋は短編

十四回生 諏佐和子

過ぎた日の恋は短編 春嵐

描けない日の林檎は 林檎でしかなくて

林檎煮つめる わたしの沸点探してる

秋風吹くから 胸はスイングドア

冬薔薇 今日にはベンチで夢をかう

現代俳句

編集部 「調」(しらべ)という本に出会い、諏佐さんのご了承を得て掲載しました。ことばで綴る日本の美 という副題がついてますのは、六百余の短歌・俳句の寄稿者の方々の日本語の美しさや日本人の息吹を詩歌で顕したいという意気を感じました。